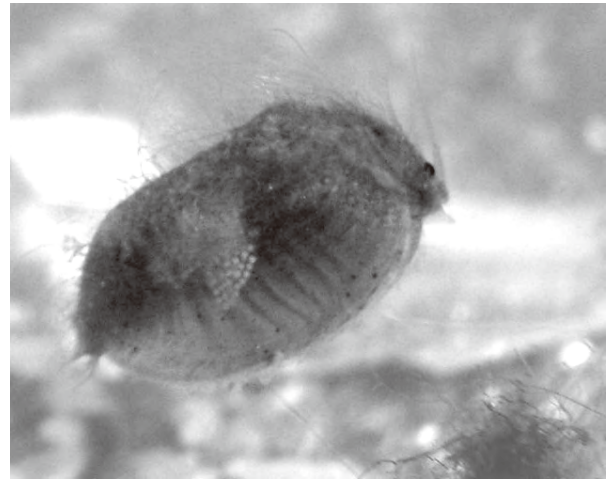


No.423

カイエビ ～田んぼにすむ生きた化石～

水が張られた田んぼの中をのぞくと、様々な生き物が生活していることが分かります。水底をのそのそとはい回るタニシ、水面をすいすいと泳ぐアメンボ、目を凝らして観察すれば水中をピッピッと泳ぐミジンコの姿も目に入ります。さらに注意深く探せば、1 cm 程度の二枚貝のような形の生き物が水中を泳いでいる姿が目にとまるかもしれません（右写真）。これは「カイエビ」という生き物で、カニやエビと同じ甲殻類の仲間です。

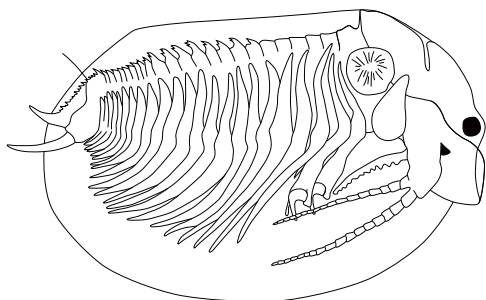


水中を泳ぐカイエビ（雌）

カイエビは田んぼだけでなく、1年のわずかな期間だけ水で満たされる自然の湿地にもすんでいます。こうした環境は、天敵が少なくカイエビにとって都合のいい場所ですが、人間の開発によって陸地や貯水池に変えられてしまうことが多く、もっとも失われやすい湿地環境のひとつです。日本ではこうした環境がイネを育てる田んぼに作り変えられ、カイエビにとって代わりのすみかとなっています。

実はこのカイエビ、恐竜時代に大繁栄していました。ときには地層がカイエビでびっしりとおおわれていることもあり、恐竜時代の化石を研究するとき大いに役立ちます。富山や福井に分布している恐竜時代の地層からは恐竜の化石がたくさん見つっていますが、カイエビの化石はまだ見つかっていません。カイエビがみつければ中国や韓国の恐竜産地との比較に役立つので、その発見に期待がよせられています。

田んぼにいる生きているカイエビは県内のあちこちで見つかり、昨年は富山市内にも生息していることがわかりました。6月は田んぼに水がたたえ



手前の殻を取り除いた状態（雄）

られ、カイエビを見つけるベストシーズンです。田んぼの生き物を観察しながら、恐竜時代に思いをめぐらせるのも楽しいものです。また、科学博物館にもカイエビの展示があります。生息場所を考えてどこに展示してあるか探してみましよう！

（吉岡 翼）